

不登校が社会問題化し始めてから久しく、今ではクラスに一人か二人は不登校の生徒がいることはめずらしくありません。しかし、大学生の不登校と聞くと、ちょっと聞き慣れない感じもするでしょうか？大学ではクラス単位で行動しないので、誰かが来なくなってしまっても目立たないのですが、実際には、大学生でも不登校状態になることはけっこうあります。

## 大学ならではのきっかけ

高校生までは、不登校のきっかけとして多いのは、いじめやクラス担任との相性、クラスメートとの関係などでしょう。大学の場合、クラスという縛りがほとんどないので、こうしたきっかけはむしろ下火になってきます。

大学生の不登校のきっかけとしては、勉強についていけないということが多くのように思います。大学では課題が多く、専門科目で扱う内容も難しくなります。成績も出席状況、課題提出、テスト等の成果によってきっちり評価されます。ここで、課題を教えあう友達がいない、勉強についていけないことを家族に相談できない、などが重なってくると、不登校に結びつくリスクが高まります。

なお、4年生になると、研究室での卒研指導が始まるので、再び教員との相性がきっかけに上がってくるように思います。



## どこに相談できる？

もちろん、学生相談室でも相談に乗れます。

それだけでなく、高校までの基礎的な勉強がネックになっている場合は、学修支援センターで勉強を教えてもらうことが助けになることもあります。大学に来ると体調が悪くなってしまうという場合は、健康管理センターに相談に行ってみてもいいでしょう。そもそも大学のルールやシステムがよくわからないという場合は、学生支援課や教務課で説明してもらって安心することもあります。高校までのクラス担任に近い存在は F ゼミの先生です。研究室に入れば、指導教員にも相談できます。不眠、無気力、好きなことも楽しめないなどの症状が出ていれば、精神科の受診を考えてもいいでしょう。とにかく選択肢をたくさん持つておくことです。

